

年々増加傾向の潰瘍性大腸炎・クローン病…

教えて
ドクター

適切な継続治療で コントロールが可能に!

「IBD(炎症性腸疾患)」を知っていますか? 「潰瘍性大腸炎」と「クローン病」といった
ほうが聞き慣れているかもしれませんが。原因不明で、かつては「希少疾患」「治療困難」
とされたIBDの患者数は年々増え、今や身近な疾患とされるとともに、治療法も格段に
進化しています。そこで、IBD治療の専門医・野崎良一先生に話を聞きました。

薬で症状は
改善するの?

よくなってからも
治療は必要?

将来
どうなるの?

下痢を
繰り返す…

バランスの
良い食事って?

しょっちゅう
腹痛…

実は IBD(炎症性腸疾患)かも…



食生活などの欧米化により
年々増加傾向にあるIBD

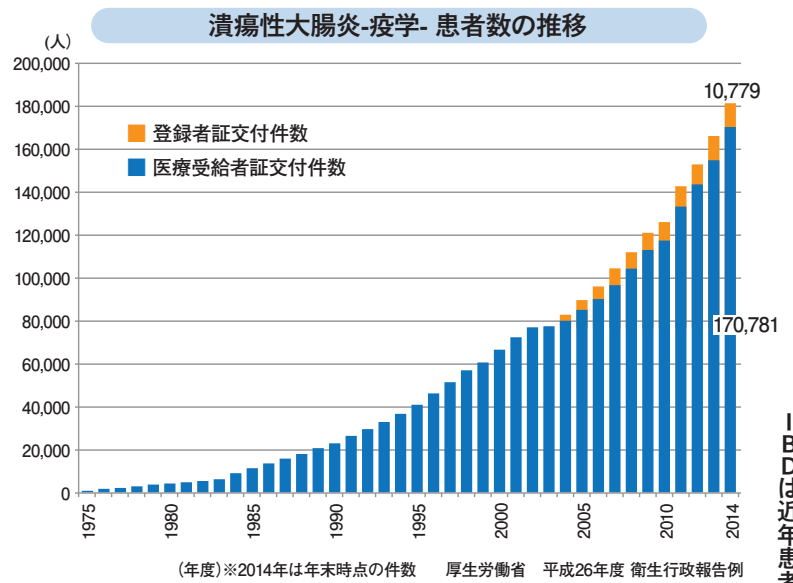


のぞき消化器IBDクリニック院長
野崎良一先生
自治医科大学医学部卒業。大腸肛門病センター
高野病院
副院長・理事を経て、2021年開業
日本消化器病学会認定消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医
日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医

IBD(炎症性腸疾患)は大腸の粘膜に、クロー
ンは、腸を中心とする消化
管粘膜に炎症が起る病
気、一般的には潰瘍性
大腸炎とクローン病を指
します。原因は不明で
が、遺伝や環境、腸内細
菌の異常などが要因で免
疫異常を起し、発症す
るのではないかとわれ
ています。潰瘍性大腸炎
は、腸を中心とする消化
管粘膜に炎症が起る病
気、一般的には潰瘍性
大腸炎とクローン病を指
します。原因は不明で
が、遺伝や環境、腸内細
菌の異常などが要因で免
疫異常を起し、発症す
るのではないかとわれ
ています。潰瘍性大腸炎
は、腸を中心とする消化
管粘膜に炎症が起る病
気、一般的には潰瘍性
大腸炎とクローン病を指
します。原因は不明で
が、遺伝や環境、腸内細
菌の異常などが要因で免
疫異常を起し、発症す
るのではないかとわれ
ています。潰瘍性大腸炎

IBDとよく似た症状
が現れる疾患に、IBS
(過敏性腸症候群)があり
ます。ストレス社会を反
映して増加しています
が、IBDと違い、腸に
異常は認められません
中には「IBSと診断さ
れたが本当はIBDであ
り、適切な治療が遅
らないうちに、一般の
消化器内科で厚労省
のIBD治療指針に準
拠した治療を受ける
ことが望まれます。症
状が落ち着くにつれ
、専門医との連携の
もと、近隣の消化器
内科での治療継続も
可能です。

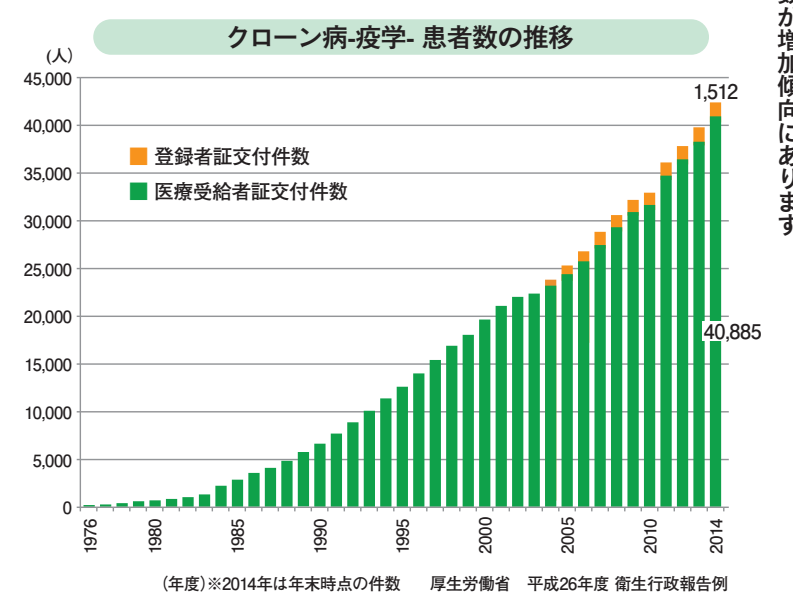
気になる症状が続けば早めに受診を
正確な鑑別と適時適切な治療が重要



IBDは近年患者数が増加傾向にあります

有効で多様な治療薬が次々と登場
ライフスタイルに合わせた選択を

症状が落ち着いている。しかし、近年は有効
寛解期と症状が悪化する
活動期(再燃)を繰り返す
のがIBDの特徴。かつ
ては寛解と再燃を繰り返
すことで体にダメージが
蓄積し、腸管の狭窄や瘻
孔などを発症して入院や
手術が必要になるケース
も少なくありません。ま
た、IBDによる大腸
がんの発症リスクも軽減
されています。
薬の種類も1日1回の
経口薬や2週間に1度の
自己注射、8週間に1度
の点滴などさまざま
自分の病状やライフス
タイルに合わせて選択す
ることが可能です。



適切な継続治療で症状をコントロール
長期にわたる寛解維持が可能に

以前は、IBDの症状
が悪化する生活の質が
大きく低下し、通常の生
活を営むことが困難な
状態に陥ることもあり
ました。医師がそれを
察知して適切な対処す
るためには、定期的な
治療の継続が重要な
要素です。寛解期で
治療の継続が難しく
なると、健康な人と違
わらない生活を送るこ
とが難しくなります。
IBDの治療は長期に
わたるため、患者さん
と医師の信頼関係が
とても重要です。不安
や疑問があれば、一
人で悩まず、気軽に
医師や薬剤師と相談
してください。

野崎先生からの メッセージ

- point 1
なかなか治らない下痢や腹痛は、我慢しないで受診すること
- point 2
病名を告げられて、治療が難しいとわかって落ち込んで
- point 3
治療の継続が最も重要。専門医とともに、上手に病気と付き合おう